

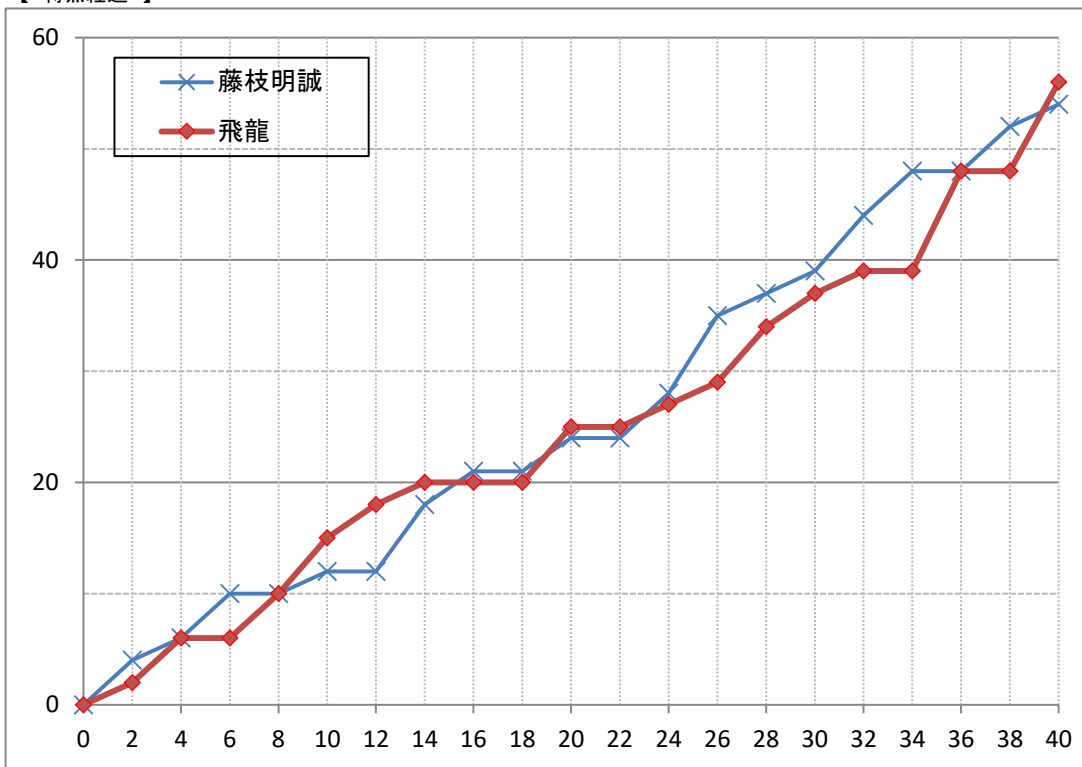
令和元年度東海高等学校バスケットボール新人大会静岡県予選兼静岡県高等学校バスケットボール新人大会県大会

【 得点経過 】

男子決勝リーグ

試合日	2020年2月2日
会場	静岡県武道館
コート	Aコート
開始時間	13:00

TEAM A		TEAM B
藤枝明誠 (中部)	54	56 飛龍 (東部)
	12 - 15 12 - 10 15 - 12 15 - 19	OT



TEAM A 藤枝明誠 (中部)							
No	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4	DNP	稲井大	0	0	0	0	0
5	DNP	神谷大樹	0	0	0	0	0
6	*	朝比航士郎	10	0	5	0	0
7	*	遠藤千晟	13	1	5	0	2
8	*	カミノコ・オマール	13	0	6	1	5
9	*	石橋永遠	11	1	3	2	4
10	*	ロカニト	2	0	1	0	1
11	DNP	川村康汰	0	0	0	0	0
12		眞野皓斗	5	0	1	3	2
13	DNP	原田翔太	0	0	0	0	0
14	DNP	川越大輔	0	0	0	0	0
15	DNP	斎藤新	0	0	0	0	0
16	DNP	中山晴貴	0	0	0	0	0
17	DNP	櫻庭光生	0	0	0	0	0
18	DNP	藤川夏希	0	0	0	0	0
19	DNP	福岡哲人	0	0	0	0	0
20	DNP	杉山英大	0	0	0	0	0
21	DNP	沢辺虎之輔	0	0	0	0	0
TEAM/COACH			/	/	/	/	0
TOTAL			54	2	21	6	14

TEAM B 飛龍 (東部)							
No	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4	*	櫻井棕介	0	0	0	0	2
5		保坂晃毅	12	0	6	0	2
6	*	古大内雄梨	12	2	3	0	2
7	DNP	細野泰生	0	0	0	0	0
8		山本愛哉	3	1	0	0	1
9		佐藤彩人	12	2	3	0	1
10	*	鳥見勇敬	0	0	0	0	3
11	*	遠藤涉夢	17	3	2	4	1
12	*	三橋翔	0	0	0	0	0
13		番地敦也	0	0	0	0	0
14	DNP	池田涼	0	0	0	0	0
15	DNP	渡邊晴	0	0	0	0	0
16	DNP	斎藤大	0	0	0	0	0
17	DNP	坂田翔	0	0	0	0	0
18	DNP	佐藤銀次	0	0	0	0	0
19	DNP	岡部智也	0	0	0	0	0
20	DNP	庄司空人	0	0	0	0	0
21	DNP	土谷悠真	0	0	0	0	0
TEAM/COACH			/	/	/	/	0
TOTAL			56	8	14	4	12

【 戦評 】

1Q 決勝戦、両チームマンツーマンディフェンスでスタート。先制点は明誠、⑧カミノコがリバウンドシュートでファウルをもらい、フリースローを決める。その後も明誠⑦遠藤のスリーポイント、ドライブで加点する。対する飛龍は⑤保坂、⑥古大内を中心にリングアタックをする。シュートが決まらない状態が続く。10-6で明誠がリードして残り4分、飛龍のヘルプディフェンスが機能し、明誠の得点が止まる。飛龍⑤保坂のジャンプシュートで逆転すると、⑨佐藤のショット、⑥古大内のスリーポイントで加点し、12-15で飛龍リードで1Q終了。

2Q 飛龍は⑨佐藤のスリーポイントでリードを広げ、ディフェンスのプレッシャーラインを上げる。対する明誠はインサイドを起点にし、⑨石橋、⑥朝比の効果的なドライブで加点し、5分27秒で明誠⑨石橋のドライブがバスケットカウントになり、21-20になったところで飛龍はたまたまずタイムアウトを取る。明誠は効果的なスイッチディフェンスで飛龍のオフェンスを防ぎ、5分間飛龍の得点を無得点に抑える。残り2分、飛龍は⑪遠藤のフリースロー、⑧山本のスリーポイントで25-22と逆転すると、明誠も⑨石橋、⑥朝比のドライブで追いつき、25-24飛龍リードで前半終了。

3Q 両者マンツーマンディフェンスでスタート。互いにリングアタックを果敢に仕掛けるが、スコアにつながらない。明誠は⑥朝比、⑦遠藤のドライブを中心にオフェンスを組み立て、飛龍はセンターのスピードによるミスマッチ、オフボールの2対2でオフェンスを組み立て、一進一退の状態が続く。均衡を破ったのは明誠、⑦遠藤のドライブとブレイクで連続得点し、⑨石橋のスリーポイントで33-27とリードする。飛龍も⑤保坂のドライブ、⑨佐藤の連続得点で点差を縮め、39-37で明誠リードで3Q終了。

4Q 飛龍はスクリーンプレイやドライブからオープンを作るものの、シュートが決まらない。対する明誠は⑥朝比、⑫眞野のドライブ、⑧カミノコのポストプレイ、⑩ロカニトのシュートが決まり、48-39で明誠がリードしたところで、飛龍がタイムアウト。その後、飛龍は⑧山本のスティールから⑥古大内のスリーポイント、⑪遠藤のブレイクなど連続9得点を取り、48-48と同点になったところで明誠がタイムアウト。タイムアウト後、明誠はディフェンスを1-3-1ゾーンディフェンスに変え、飛龍の足を止め、ディフェンスリバウンドを制して明誠⑫眞野のブレイク、⑧カミノコのオフェンスリバウンドからのシュートで52-48とリードを広げる。しかし飛龍は⑪遠藤がピックからポップしてスリーポイントを決めると、⑤保坂がバスケットからブレイクを決めて53-52と逆転する。明誠は⑫眞野がドライブでファウルをもらうと、2本ともフリースローを冷静に決め、54-53と明誠が逆転。残り1分を切って息詰まる攻防の中、残り9秒で飛龍はバス回しからオープンになった⑪遠藤がスリーポイントを決め、56-54と飛龍がリードする。明誠はタイムアウトを取ってワンプレイ作るものの、飛龍のディフェンスに阻まれ、そのままタイムアップとなり、飛龍が優勝を勝ち取った。

戦評(文責) 中川 智之(常葉大橋高校) | 記入者 田中 康仁(吉原工業高校)